

令和元年度第1回 多摩市男女平等参画推進審議会 要点録

開催日時：令和元年5月27日（月曜） 19：00～21：00

場 所：TAMA女性センター 活動交流室

出席委員：広岡守穂委員、木本喜美子委員、安藤慎次委員、飯島明美委員、神子島健委員、
神山直子委員、堤香苗委員、真野文恵委員（会長・副会長以下50音順）

欠席委員：なし

事務局：山本課長、西担当主査、吉田主事

傍聴者：0名

（発言者凡例：◎会長、○委員、◇事務局）

1 開 会

2 報 告

（1）平成30年度第7回男女平等参画推進審議会要点録（案）について

◇平成30年度第7回要点録(案)について修正等があればこの場でご意見を頂くか、
6月3日（火曜）までに事務局にご連絡を頂きたい。

◎この場では特になし。

3 議 題

（1）平成30年度多摩市男女平等参画推進審議会からの提言に対する市の考え方について（報告）

◇【資料1】に基づき、事務局から「災害時におけるTAMA女性センターの役割に関する提言に対する市の考え方について」の内容について説明。

○審議会において多摩市防災会議等での女性比率が低いことを指摘し、ヒアリングも行ったがこれらは反映されているのか。

◇6月8日に女性センターと防災安全課との共催で「自主防災組織リーダー研修会」を行う。その際に普段地域で活躍している女性の重要性を説明し、ネットワークづくりなどにおいて反映させていけたらと考えている。

○【本市の現状と課題】において、指摘していた地域での女性リーダーの育成やネットワークづくり、外国人への対応、大学や企業との連携、避難所におけるユニバーサルトイレの設置、高齢者集住地域の把握などの取組みを進めているが、まだ十分に出来ていない事項があるとの記述があり、このように市が認識したことは前進す

るエネルギーになると考える。また市役所が、発災後問題が起きたときに女性センターだけでは出来ないことがあると認識し、女性センターの言うことを聞くのではなく主体的に関わっていくことが大切だという認識を明らかにしたことは意味あることであるため、この提言を出したことも価値あるものになった。

○一方で【災害時におけるTAMA女性センターの役割】の内容は抽象的なところにとどまっている。【本市の現状と課題】と比べると量的にも内容的にも差がある。具体的になるとよりよいと思う。

◎内容はともかく、きちんとした文書をいただけたことは非常に嬉しく、高く評価したいと思う。

(2) 平成29年度多摩市男女平等参画推進審議会からの提言に関する取組み状況について(報告)

◇資料4,5に基づき、事務局から平成29年度多摩市男女平等参画推進審議会からの提言に関する取組み状況について「多摩市立聖ヶ丘中学校出前授業実施結果」と「多摩市立小・中学校人権教育推進研修実施結果」を説明。

○それぞれ講師は誰が担当したのか。

◇多摩市立聖ヶ丘中学校出前授業については、前半部分は平和・人権課からリーフレットを用いて市の取組み等を説明し、後半部分は市民運営委員会の委員長であり、長年養護教諭をされていた高橋裕子氏に、生徒同士でのロールプレイングを交えながらDVや性自認・性的指向について授業をしていただいた。多摩市立小・中学校人権教育推進研修については、平和・人権課職員のみで説明やグループワークを行った。

○多摩市立聖ヶ丘中学校出前授業について、校長先生に対応していただき、保護者の理解があったからこそ実現したのだと思う。家庭への配慮もよりしっかり行っていたらよい。

(3) 今後の審議内容について意見交換

◇資料2に基づき、事務局から「令和元年度男女平等参画推進関係スケジュール」について説明。

◎行動計画の改定にあたり、プロセスがすごく大切だと考える。今回審議会が実際に改定作業を行うことはないが、改定に向けた提言や改定作業の手法を提案していくのであれば、その取組みはとても大きな意義がある。そこで、女性センターの利用

者やLGBT問題などに熱心に取り組んでいる方を巻き込んで市民参加型にし、ワークショップ等の場をつくってほしいと考える。多摩地域には意見をくださる方が多くいるので、その意見をうまく取り込んでほしい。

- 10年前に改定した際には、改定市民会議を立ち上げた。改定市民会議は12人体制とし、有識者だけでなく、民生委員や公募で地域で活躍している方々などを集めた。その中で6人ずつで担当を分け、具体的に進めた。
- 今回第4期の改定を行うにあたり、10年前の第3期と比べてどう変わったかを洗い出すと、新しくすべきところが見えてくる。前回から継続的に見なくてはいけない項目については変えずに、新しい項目については新しく盛り込むということは、意識・実態調査で何をとるかによって計画の進むべき道がわかってくると思う。
- ◎意識・実態調査は経年比較をするため基本的なところは変えてはいけない。10年間で起こったことをもとに、何を調査項目に入れなくてはならないかを考えて調査票を作らなくてはならない。
- ◎豊島区の100人女子会のような形で、市民に調査・分析・コンサル的な役割をしてもらうことで、改定に向けてエンパワメントしたという実感を与えられたらいいのではないか。
- 学生に参加してもらうのも良いが、生活に関わる課題は生活者でないとわからない部分がある。そのため学生だけではなく、若い世代などを巻き込むといいのではないか。
- これからの10年をどうしていくか、10年の人口動向を視野に入れて考えていくべきである。若い人たちの意見を取り入れることが必要である。
- 若者会議などにおいてもそうだが、PRの仕方が上手くない。加えて、若い人が増加しているにもかかわらず地域に入ってこないという現状がある。多摩市はコンパクトですぐ顔を合わせられるにもかかわらず、情報が行き渡っていないがゆえに人がイベント等に来まらない。ワークショップ等を行う際には、工夫してPRし集客をしていくべきである。

(4) その他

- ◎第3回推進審議会は令和元年8月13日(火)に実施することを決定した。